

長崎・県央地域



農林業・農山村の将来像

みかん産地の再生に加え、びわ産地日本一を維持するとともに、新規参入者や定年帰農者の確保を進め、中山間地域においては、特性に応じた少量多品目産地の育成など、園芸主体の経営体による新たな産地の形成や、環境と調和した収益性の高い畜産経営が営まれ、地域の重要な基幹産業となる農業を目指します。

いちご、アスパラガス、トマト類、さく、カーネーションなど地域の特性を生かして施設園芸が盛んに営まれています。時代にあった生産・販売体制を構築し、更なる産地の発展を目指します。

農作業における省力・軽労化を更に進めるとともに、新規就農者へも魅力ある産業とするため、ロボット技術や人工衛星を活用したりモートセンシング技術、クラウドシステムをはじめとしたICTを活用し、超省力・高品質生産を実現する新たな農業（スマート農業）の実現を目指します。

畜産については、畜産クラスター事業を積極的に活用しながら、規

模拡大、生産率の向上による増頭、放牧による耕作放棄地の解消を目指します。

平坦な穀倉地帯や圃場整備、かんがい施設の整備が行われた畑地帯及び諫早湾干拓等を中心に、産地を維持するため新たな担い手となる就農支援を行いつつ、県内でも有数の食糧供給地帯を目指します。

西彼杵半島や多良山系の森林を活かして、木材生産の拠点づくりや、地域住民への憩いの場の提供づくり、水源涵養など多面的機能の発揮に向けた多様な森林づくりを目指します。

「施業集約化・低コスト化による搬出間伐の推進」と「県産材利用拡大に向けた取組の強化」を重点課題とし、林業関係者、関連産業、関係機関、市町と連携しながら、計画的な森林整備と木材の活用に取り組むこととし、県内でも有数の森林資源と木材加工施設が立地する利点を活かし、県内の木材流通の拠点地域を目指します。

地域別・産地別の戦略の展開

長崎地域全体

①肉用牛肥育経営基盤確立と地域資源を活用した繁殖経営の展開

肉用牛肥育では飼養管理の徹底による出荷頭数の確保や枝肉重量並びに肉質向上を図ります。

- 部会独自飼料の活用
- 定期巡回指導、共同作業の強化
- 長崎和牛ブランドの確立

②都市と農村の交流促進による農山村の活性化

地域特産農産物と観光産業との連携、農業体験による都市と農村の交流促進、直売所を中心とした地産地消の地域内流通システムの構築に取り組むことで農村地域の活性化・所得向上を図ります。

- 修学旅行誘致、旅行会社等へのPR
- 企業・大学等と連携した棚田保全活動
- 直売所ネットワーク等を活用した直売所間の連携強化 など

長崎南部地域

①中山間地帯におけるびわを中心とした園芸の振興

日本一のびわ産地の維持に向け、担い手の確保、「なつたより」の生産拡大によるブランド力強化、農作業省力化、いちご・花きの新品種導入、安定生産技術等に取組むことで所得向上を図ります。

- 定年帰農者向けの「びわ講座」
- 「なつたより」への新改植推進
- ハウス・露地の円滑なリレー出荷
- レインガン防除等の普及推進
- 「ゆめのか」の安定生産技術の確立

②施設野菜の生産性向上と露地野菜の畑地基盤整備による生産振興

いちごの優良品種転換、アスパラガスの新改植等による単収向上を図るとともに、基盤整備による荒廃農地復旧と担い手への農地集積を進め、露地野菜の産地化を目指します。

- 「ゆめのか」の作付推進と安定生産技術の確立
- いちごパッケージセンターの推進
- アスパラガス新改植の推進
- 基盤整備後の営農支援 など

大村湾南部地域

①中山間地帯における柑橘産地の活性化

柑橘産地の収益力向上に向けたブランド率向上、優良品種の面積拡大、貯蔵みかんの出荷量増大と併せ雇用労力の確保に取り組むことで所得向上を図ります。

- ブランド指定圃制度の面積拡大
- 優良品種への新改植推進
- 冷風定湿貯蔵技術の確立・普及
- 地域労力支援システム拡充強化
- 担い手への圃地集積、圃内道整備 など

西彼杵半島

①丘陵地帯における柑橘経営の安定

担い手への圃地集積と基盤整備により高生産性樹園地を確保し、優良品種への更新を促進するとともに、省力化の推進やブランド率の向上を図ります。

- 農地中間管理事業を活用した農地流動化の促進
- 基盤整備の推進
- 優良品種への改植、省力化の推進
- ブランド率向上

諫早地域全体

①施設園芸農家の経営改善、規模拡大と新規就農者の確保・育成による産地の維持・拡大

施設園芸において、優良品種への転換や、畜産農家と連携した資源循環型農業の確立、環境制御技術の導入等により高収量・安定生産を目指します。また、各産地における新規就農者の確保・育成を推進します。

- 「ゆめのか」の作付推進と安定生産技術の確立
- アスパラガス新改植の推進
- 炭酸ガス等、環境制御技術の導入
- 受入団体等登録制度の推進 など

③肉用牛生産体制の強化と国際化に対応した養豚経営の確立

肉用牛経営において、放牧等コスト低減による肉用牛繁殖経営改善や、ブランド化の推進、飼養管理の徹底等による出荷頭数の確保を図ります。また、養豚経営においても、出荷頭数の増頭対策やコスト低減対策による所得確保を図ります。

- 肉用牛肥育経営の繁殖部門導入
- 遊休農地を活用した放牧の推進
- 養豚経営での人工授精やエコフィードの利用拡大 など

諫早平野地域

①県下一の水田地帯における水田の汎用化・フル活用による集落営農組織等の法人化・育成

集落営農の法人化と組織力強化に向けた条件整備支援や、新品種、栽培技術の普及等により所得向上を図ります。

- 集落営農組織等の法人化・育成
- 基盤整備、排水対策の推進
- 米・麦・大豆等の新品種導入と安定生産技術の普及
- 加工業務用野菜など露地野菜の産地育成

諫早湾干拓地域

①平場地帯における大規模環境保全型農業の振興

平坦かつ大区画圃場の優位性を活かし、環境と調和した生産性の高い先進的な農業の展開を目指します。

- 大規模環境保全型農業の確立
- 加工業務用野菜供給体制の構築
- ロボットトラクター等の導入による省力栽培体系の確立
- 大規模経営体の経営安定

飯盛有喜地域

①基盤整備や集出荷施設を核とした野菜の経営規模拡大と産地育成

ばれいしょ、にんじんなど露地野菜の輪作による生産の安定や省力化、労力確保等による経営規模拡大と産地育成を図ります。

- 基盤整備の推進と集出荷施設の整備
- 野菜の改善技術の普及
- 農作業の省力化と労力支援体制の構築

大村・東彼地域全体

①園芸農家の経営改善と新規就農者の確保・育成による産地の維持・拡大

施設園芸において、優良品種への転換や、資源循環型農業の確立、環境制御技術の導入、ブランド化の推進等により高収量・安定生産を目指します。また、各産地における新規就農者の確保・育成を推進します。

- 「ゆめのか」の作付推進と安定生産技術の確立
- アスパラガス新改植の推進
- 炭酸ガス等、環境制御技術の導入
- 受入団体等登録制度の推進 など

東彼地域

①平坦水田地帯における、集落営農法人等の育成による水田の汎用化・フル活用推進

集落営農等を担い手として、基盤整備や暗きょ排水などに取り組むことで水田の汎用化を図り、加工用たまねぎやばれいしょなど、水田裏作の活用を推進します。

- 法人（集落営農）、認定農業者等への農地集積
- 水田汎用化のための基盤整備、暗きょ排水
- 園芸品目栽培の導入、面積拡大

多良山麓地域

①中山間地帯におけるみかん産地の維持と肉用牛の放牧、加工業務用野菜等の推進

みかんの優良品種への改植や省力機械の導入、担い手への圃地集積に取り組むとともに、耕作放棄地を活用した放牧の推進や、加工業務用野菜の振興を図ります。

- 指定圃制度の取組によるブランド率の向上
- 農地流動化の推進によるみかん産地の維持
- 放牧地の確保と地域への定着
- 加工業務用露地野菜の産地育成

②県内有数の肥育地帯の維持・発展と農産・園芸農家との連携強化による資源循環の確立

長崎和牛の銘柄確立とコスト低減等による収益性向上に取り組むとともに、耕畜連携強化による生産費低減と環境に調和した畜産地帯の確立を図ります。

- 多頭飼育農家の育成
- 長崎型新肥育技術の導入・普及
- 繁殖部門の導入、地域内一貫生産体制の構築
- 耕種農家とのマッチングによる堆肥・稲わらの交換促進 など

②ブランド確立に加え、新商品開発と輸出に向けた取組による県内一の茶産地の振興

品質向上や品種更新の取り組みに加え、茶業経営の協業化や茶工場再編等を図り、新型製茶機による新商品開発や、輸出に向けた産地づくりを推進します。

- 蒸し製玉緑茶の品質向上と、優良品種への改植推進
- 大規模経営の育成
- 減農薬栽培茶の生産拡大やG-GAPの認証取得推進
- 機能性表示を活かした販路開拓 など

長崎・県央地域全体

①木材搬出コスト縮減と生産性の向上

木材生産の効率化を図り、森林・林業地域の所得向上を図ります。

- 長期受託契約と森林経営計画策定
- 路網の整備
- 高性能林業機械の稼働率の向上

②木材需要体制の確立と県産材の流通拡大並びに特用林産物による地域振興

木材加工等施設の活用を図るとともに、木材・特用林産物需要拡大への取組を促進します。

- 森林組合等と製材加工施設とのマッチング
- 木材規格や品質に応じた販売
- 木質バイオマス利用の推進
- 「木の駅」プロジェクト
- しいたけ、ハラン、タケノコ、木炭等付加価値の高い商品化や販売PR など

③森林の多面的機能の発揮

持続的な森林経営と健全な森林づくりを推進することにより森林の多面的機能を発揮させ地域へ供与します。

- 保安林の適正管理と指定促進
- 森林ボランティア等を通じた森林・林業の役割や魅力の情報発信

島原地域



農林業・農山村の将来像

島原半島地域は、肥沃な土壌、温暖な気候に恵まれ、県下を代表する農業先進地であり、地域の基幹産業として、新技術の導入や技術革新等を推進することにより環境と調和した収益性の高い農業の実現を目指し、生産基盤の強化を図ります。

特に「いちご」については、「ゆめのか」の定着による所得の向上、にんじん、レタス、ブロッコリー等の作付拡大、花きについては施設の高度化や規模拡大、畜産については、増頭、コスト縮減、生産性向上や家畜防疫対策の強化を図ります。

農地の基盤整備の促進と農地中間管理事業の活用により担い手への農地集積を推進し、さらに、機械化と労力支援システムの強化を図ることで、力強い経営力を持った大規模経営が多数存在し、他地域や他産業から農業を生業として選択する後継

者が育つ地域を目指します。

また、多様な農産物を活用した新商品の開発など食品加工産業との連携・協業体の育成を目指します。

集落同士の連携による集落機能の維持・強化を図るとともに、農林水産業の体験観光・民泊などのグリーン・ツーリズム、直売活動などのコミュニティビジネスに取り組む活力ある農村社会の構築を目指します。

健全な森林へ誘導するために森林整備を推進し、利用可能な木材については、協定販売を推進することで木材の安定供給体制の強化と県産材の利用拡大に取り組みます。

特用林産物である菌床しいたけについては、低コスト化と品質向上に取り組めます。

地域別・産地別の戦略の展開

島原地域

①畑地帯における、基盤整備と集出荷施設を核とした野菜の振興

大型選別機を整備した野菜集出荷施設を核とした基盤整備の推進、省力化機械の推進に加え、担い手への農地集積や規模拡大、新規就農者の受入・育成を推進します。

- 基盤整備の推進と担い手への農地集積
- 省力化機械の導入推進と労力支援組織の拡充
- 新規就農者の受入・育成による産地維持拡大

②畜産クラスターの活用による畜産の収益性向上

畜産クラスターにより、畜産農家の収益性向上を目指し、低コスト、高品質、生産性向上対策を図ります。

- 肉用牛繁殖の増頭推進や、繁殖成績向上
- 肉用牛肥育の長崎型新肥育技術の普及や出荷の適正化
- 酪農の牛群検定活用による能力の向上や自給飼料の推進
- 養豚の飼料米活用による低コスト化や、経営安定対策、環境対策の推進
- 養鶏の暑熱対策による生産性向上や、鳥インフルエンザ予防対策の強化

②畑地帯の基盤整備の推進による露地野菜産地の拡大

露地野菜の規模拡大を加速化するため、畑地帯の基盤整備の推進や、水田地帯での園芸品目の導入を進めるとともに、集出荷施設を核とした露地野菜産地の規模を拡大します。

- 品種の組合せによる労力の平準化
- 省力化機械の導入
- 基盤整備の推進や集出荷施設の整備
- 農作業支援組織の充実や、広域連携による労力の確保 など

③水田を中心とした土地利用型農業の展開

水稲のほか、WCSや飼料用米、園芸品目の導入により収益性の高い水田農業を目指すとともに、集落営農組織や機械利用組合を設立し集落営農法人を育成します。

- 集落営農組織の法人化
- コントラクター組織の育成
- 暗きよ等排水対策の推進
- 園芸品目、加工用農産物の導入を推進

雲仙地域

①生産性が高いいちご産地の育成・強化

「ゆめのか」の普及と、規模拡大を図るための集出荷体制整備、産地による後継者確保体制を構築します。

- 「ゆめのか」栽培技術の確立・普及による品質、収量の確保
- 炭酸ガス施用技術等環境制御技術の導入
- パッケージセンターの導入
- 収穫作業に従事する労働力の確保・育成
- 新規就農者の受入・育成による産地維持

④畜産クラスターの活用による畜産の収益性向上

畜産クラスターにより、畜産農家の収益性向上を目指し、低コスト、高品質、生産性向上対策を図ります。

- 肉用牛繁殖の増頭推進や、繁殖成績向上
- 肉用牛肥育の長崎型新肥育技術の普及や出荷の適正化
- 酪農の牛群検定活用による能力の向上や自給飼料の推進
- 養豚の飼料米活用による低コスト化や、経営安定対策、環境対策の推進
- 養鶏の暑熱対策による生産性向上や、鳥インフルエンザ予防対策の強化

南島原地域

①生産基盤整備や経営基盤強化による園芸産地の振興

基盤整備の推進や担い手への農地集積に取り組むとともに、新たな担い手の確保や省力・軽労化技術の導入を図ります。

- 基盤整備の推進
- 農地流動化の促進
- 集出荷・選果施設の再編等による産地強化
- 新技術導入等によるいちご・トマトの生産性向上
- 法人の農業参入支援 など

②特色ある農産物の生産拡大による魅力ある産地づくり

ブランド品目や有機栽培農産物など特色ある農産物の生産・拡大による商品性向上・産地拡大を図ります。

- 施設中晩柑における省エネ・低コスト生産品目等の導入
- 有機農業・特別栽培等への取組支援
- 高度なGAPへの取組支援

③地域資源を活用した農山村地域の振興

有害鳥獣被害防止の取組強化と、農山村が有する多彩な地域資源を活用したグリーン・ツーリズムの取組拡大や、都市農村交流人口の増加による地域活性化等を進めます。

- 有害鳥獣防護柵の効果的な設置推進
- 捕獲隊など地域ぐるみによる鳥獣被害防止の取組
- 商工観光組織等と連携した体験民宿軒数の増加
- 交流拠点施設の設置検討支援

④畜産クラスターの活用による畜産の収益性向上

畜産クラスターにより、畜産農家の収益性向上を目指し、低コスト、高品質、生産性向上対策を図ります。

- 肉用牛繁殖の増頭推進や、繁殖成績向上
- 肉用牛肥育の長崎型新肥育技術の普及や出荷の適正化
- 酪農の牛群検定活用による能力の向上や自給飼料の推進
- 養豚の飼料米活用による低コスト化や、経営安定対策、環境対策の推進
- 養鶏の暑熱対策による生産性向上や、鳥インフルエンザ予防対策の強化

県北地域



農林業・農山村の将来像

優良な農地を集約し生産性を高め高品質な農産物の生産拡大を図るとともに、中山間地を利用した放牧を進め畜産経営の大規模化を図り、農業所得の向上を目指します。

農村地域において受託組織や集落営農により農地の活用や保全を図り、農産物を活用した6次産業化を進め、直売所等での売り上げ増加を目指します。また、新鮮な農産物と地域資源を堪能してもらうため、都市からの集客を進めます。

ため池整備や山地災害対策を進め、安全で安心して暮らせる

農山村集落を目指します。

木材生産量の拡大を図り、新規林業事業体の参入による林業事業体の雇用就業者の増加を目指します。

また、木材のカスケード利用を進め販路の拡大を図り、林業生産額の増大を目指します。

広範な県民による里山管理を進め、健全な森林保全を目指します。

地域別・産地別の戦略の展開

南部地域

①みかんのブランド維持と野菜・花きの生産性向上による園芸産地の振興

西海みかんのブランド維持に向けた担い手の経営規模拡大並びに野菜・花きの安定した生産・販売による農業所得の向上を図ります。

- みかんの高品質生産技術の徹底
- みかん園地の基盤整備や担い手への農地集積
- 野菜・花きの増収・コスト低減による生産性向上、新規品目導入、新産地育成
- 省力機械の導入や労力確保システムの改善

②水田活用と繁殖牛規模拡大、茶生産効率化による中山間水田地域の振興

集落営農組織の特定農業法人化、水田における生産性向上、世知原茶の集約・分業化による高品質生産、繁殖牛の段階的な規模拡大に取り組めます。

- 水稲高温耐性品種の導入
- 飼料作物・WCS用稲の作付拡大
- 水田作付の施設野菜・花きの生産性向上
- 少量多品目生産による地域内流通推進
- 茶機械化による省力化、茶園の集積・茶工場再編や作業の分業化による茶の高品質化
- 粗飼料流通組織設立等による労力軽減

③繁殖牛の規模拡大による離島地域の振興

繁殖牛における放牧や労力確保による規模拡大により、島での安定した所得確保を図ります。

- 繁殖牛における放牧とヘルパー組織の強化
- 新規就農者を主体とした施設・機械等の整備や優良雌牛の導入

④露地野菜の拡大と園芸・畜産の生産性・販売力向上による中山間水田地域の振興

水田裏作への加工・業務用野菜作付拡大、いちご・畜産の生産性の向上及び茶の高付加価値化に取り組めます。

- 日本型直接支払制度の事務委託推進
- 水田裏作の加工・業務用野菜の作付拡大
- いちごや畜産の青年就農者を中心とした施設・機械等の整備
- 異業種交流を通じた個性的な茶産地の育成

⑤繁殖牛放牧と新規就農者定着、6次産業化による「しま」の振興

繁殖牛の大規模経営の育成や新規就農者の定着、地域特産品・軽量農産物の作付拡大に加え、6次産業化やグリーン・ツーリズムによる都市農村交流を促進します。

- 未利用地やICT技術を導入した放牧の推進
- 担い手公社の就農支援の充実
- 地域特産品・軽量農産物の作付拡大
- 地域資源を活用した6次産業化の展開
- 観光サイドと連携した農家民泊・体験受入推進

北部地域

①水田フル活用と園芸品目の安定生産、肉用牛規模拡大による平場水田地域の振興

水田フル活用に向けた高品質米生産やWCS用稲の作付拡大、加工たまねぎの産地化、園芸品目の安定生産販売、肉用牛の段階的な規模拡大、農業参入法人の園芸作物の生産安定・定着等に取組めます。

- 水稲高温耐性品種の導入
- アスパラガス、いちご、ブロッコリー、メロン、ぶどう等の生産性向上
- 和牛ヘルパー制度・キャトルステーションの活用による労力軽減
- 各種支払制度の推進と事務の一元化

②水田・園芸・畜産の生産性向上と都市との交流による中山間地域の振興

高品質米生産やWCS用稲の作付拡大、園芸品目の安定生産販売、肉用牛の段階的な規模拡大等に取組むとともに、都市と農村の交流による地域活性化を図ります。

- 水稲高温耐性品種の導入
- 花き(きく・ほおずき等)等の低コスト化による生産性向上と高品質生産
- 遊休農地を活用した放牧やヘルパー制度を活用した労力軽減の推進
- 農家民泊・農作業体験の推進

③肉用牛の規模拡大と園芸産地の育成・維持による離島地域の振興

肉用牛の段階的な規模拡大、葉たばこの産地維持及び園芸品目の作付拡大・新産地育成に取り組めます。

- 遊休農地を活用した肉用牛放牧
- 葉たばこの担い手への農地集積による効率的な生産体制の構築
- ブロッコリー、アスパラガス等園芸品目の作付拡大や集出荷体制の整備
- 新規園芸品目の産地育成

五島地域



農林業・農山村の将来像

農家戸数、農業就業人口は年々減少していますが、「担い手育成総合支援協議会」や「(一社)五島市農林総合開発公社」等の活動を中心に、担い手の確保を安定的継続的に行なうとともに、農業経営の継続が可能となるように、集落単位さらに集落を超える地域営農体制の確立や法人化を目指します。

「島の農林業」の活性化、所得の向上のために、生産段階、出荷段階における低コスト化、産地地消への取組、地域資源を生かした商品開発等によるブランド化、都市との交流など、五島ならではの特徵ある農林業の展開を目指します。

経営規模の拡大と農地の効率的活用のためには基盤整備は非常に重要であり、今後も計画的に整備を進め、五島地域の農業及び地域を守ります。

耕種部門では、ブロッコリーやたかな等の契約栽培が伸びていることから、さらに産地拡大を目指します。また、安定的な生産技術の維持・確立や、GAPの高度化推進による安全・安心な産地への取組により、施設園芸、水稲、葉たばこ、茶などの生産拡大、ブランドの確立を目指します。

畜産部門では、五島農業の基幹作目である肉用牛について、繁殖雌牛5,000頭達成を目指すため、畜産クラスター事業等を活用し大規模経営体の育成に取り組めます。

林業部門では、森林が持つ多様な機能が発揮されるよう木材生産を行いながら適正に森林を管理し、持続的な森林資源の育成と多様な森林づくりを進めるとともに、「五島ツバキ」による地域活性化を目指します。

地域別・産地別の戦略の展開

五島地域

①離島地域における集落営農組織等の運営支援

集落営農組織等立ち上げを志向する集団に対し、地域の合意形成・組織設立・運営等の支援を図り、活力ある地域農業の維持・発展を目指します。

- 集落営農組織等の立ち上げ支援
- 栽培作物の検討、技術指導
- 組織の経営管理指導

②離島地域における農産物直売所を中心とした産地地消システム構築支援

定年帰農者や新規参入者を対象に、地元農産物直売所向けの野菜栽培を推進し、産地地消の拡大、元気で生き生きと暮らせる地域づくりを目指します。

- 定年帰農者や新規参入者等への栽培技術指導
- 出荷物の集出荷体制や学校給食等への供給体制検討
- 直売所経営管理指導

③加工業務用野菜等地域の特性を活かした園芸の振興

産地計画に基づき、五島地域の特性を生かした園芸品目の振興を推進します。

- 品質、収量向上のための技術支援や経営管理能力向上支援
- 労力支援体制確立のための検討
- 施設及び省力機械導入支援

④畜産クラスターの活用による畜産の収益性向上

畜産クラスター事業による規模拡大、省力化、高品質化、低コスト化等に取り組み、畜産農家の収益性向上を図ります。

- 繁殖牛の省力牛舎整備による増頭推進
- 肉用牛ヘルパー組合による労力支援
- 島内自給飼料安定供給支援
- 母豚1頭あたりの肉豚出荷頭数の増加対策支援
- 養豚の環境対策支援

吉岐地域



農林業・農山村の将来像

吉岐地域の農業発展のためには、農業者が効率的かつ安定的な農業経営ができる環境整備や人づくり・組織づくり及び農業生産額の向上が必要です。

そのため、海路を介して大消費地の福岡市に近いという地理的優位性、豊かな自然、貴重な歴史・文化などの資源を有効に活かした社会形成のなかで、地域活性化の核となる農業を目指します。

農業の担い手による農村集落の機能が維持され、集落ぐるみの地域農業を目指します。担い手への農地利用の集積・集約化を加速させるため、農地中間管理機構等を活用して、集落営農組織の法人化に合わせた農地の集積を図ってまいります。

農畜産物の産地化推進や大都市圏向けの販路開拓・流通

拡大を通して、吉岐ブランドの確立・浸透を目指します。米麦、吉岐焼酎、肉用牛などが結びついた地域資源循環型農業を展開し、環境にやさしい農業の実践を目指します。

今後も吉岐ブランド農畜産物や農村環境・農林業体験などを観光資源の一つとした活発な農商観光連携を通して、吉岐を訪れた観光客が吉岐の農業・農村の応援団となることを目指します。

また、農山村の多面的機能の維持には、地域の共同活動による農地、水路・農道等の保全や間伐等による森林の保全が重要であり、取組を継続推進します。併せて、危険ため池の整備や山地災害の予防対策を進め、安全・安心な農山村地域づくりを目指します。

地域別・産地別の戦略の展開

吉岐地域全体

①米麦・牛・野菜等が結びつき農産物を ごっそり活かした循環型農業の振興

高品質な米生産と肉用牛生産、アスパラガス生産の連携による循環型農業の産地づくりや、地元企業と連携した大麦や野菜等の安定生産による農業振興を図ります。

- 「つや姫」の食味向上・高品質安定生産によるブランド化の確立
- アスパラガスの新改植、いちごのパッケージセンター活用等による産地拡大
- 新規就農者の確保・育成による産地の維持・拡大 など

②長崎和牛「吉岐牛」ブランド確立と 畜産クラスターの取組による 肉用牛の増頭推進

長崎和牛「吉岐牛」の更なるブランド化確立と、畜産クラスター協議会を核とした新規就農者の円滑な就農支援や規模拡大、労力支援等を推進します。

- 肉用牛の増頭推進
- 肉用牛ヘルパー組織やコントラクター等の労力支援システムの構築
- 子牛共同育成施設や繁殖牛受託施設等を活用した労力軽減
- 新規就農者の確保・育成による産地の維持・拡大

③集落営農組織の法人化による 産地の担い手確保・育成

継続的に地域農業を守り農業経営を維持・発展させていく吉岐農業の担い手として、集落営農組織を育成し法人化を目指すとともに、集落営農法人の経営安定を図ります。

- 集落を単位とした営農組織設立の推進
- 既存集落営農組織の法人化
- 法人化した集落営農組織での雇用型就業の推進
- 法人化後の経営安定支援
- 農地中間管理機構を通じた農地集約化

対馬地域



農林業・農山村の将来像

対馬地域においては、豊かな森林資源、他産地と出荷時期をずらす等の冷涼な気候をいかした特色ある農林業を展開し、農林業の所得向上を図り、快適で安全な農山村の環境づくりをめざします。

農業においては、作業受託および機械利用組合の組織化を推進するとともに、新規就農者の確保・育成、認定農業者の推進と重点支援、農地中間管理事業を活用した農地集積及び耕作放棄地解消を進めます。水稲、肉用牛、アスパラガス、そば等の生産対策については、栽培・飼養管理技術の改善等による生産量増大と安定生産及び高品質化、施設野菜の規模拡大や肉用牛飼養頭数の増加により農業所得向上を推進します。また、イノシシやシカによる農作物被害対策を推進します。

また、地産地消を推進し、直売向け野菜、花き、果樹、加工品の生産拡大を図り、6次産業化とブランド化を進めます。

ツシマヤマネコなど希少生物の住む豊かな環境に配慮した農林業を展開し、生き物ブランド米の生産を推進し、グリーン・ツーリズムなどによる交流人口を増やすことで、地域の活性化につなげます。

林業においては、森林資源の活用による県民所得向上や地域における雇用の拡大をはかるため、森林経営計画の策定や路網整備及び林業事業者の育成により、計画的かつ安定的な素材生産に取り組んでいるところです。搬出間伐の増加に伴い今後増加する素材生産に対して原木供給窓口の一元化による協定販売、素材の生産性向上のための自動選別機を備えた中間土場の整備、新たな施設を整備することによる未利用材等の活用について重点的な取組を進めます。

循環型の森林管理のために、高齢化した林分の皆伐・伐採後の再造林・保育施業の低コスト化、また、しいたけ原木林の伐採後の天然更新や植栽方法について支援します。併せて植栽の苗や萌芽した新芽を食害するシカ等の獣害対策について、市と連携し補助事業等を活用した取組を図ります。

しいたけにおいては、地理的表示保護制度を活用した「対馬しいたけ」のブランド化を推進するとともに、生産施設の集約や品質向上への取組・生産価格安定のための有利販売に、市・JA等と連携した取組を図ります。

地域別・産地別の戦略の展開

対馬地域全体

①アスパラガス、繁殖牛の振興

アスパラガスを島外向け園芸作物として、産地の規模拡大と収益改善、出荷量増大による有利販売を図ります。また、繁殖牛の放牧と省力低コスト飼養管理技術の普及、繁殖センター設置等による繁殖成績の向上、飼育頭数の増頭を図ります。

- アスパラガスの新改植
- 堆肥等資材の確保
- 放牧の推進や和牛繁殖センターの設置

②森林資源を活用した林業の所得向上

素材・製材品の島外出荷拡大に向けた販売協定に取組むとともに、未利用材等の活用を図ります。また、市・関係機関と連携し、対馬しいたけのブランド化に向けた生産・販売の取組を推進します。

- 原木供給窓口の一本化、中間土場等の確保整備
- 高性能林業機械や路網整備による生産コストの低減
- 対馬しいたけの品質向上、販路確保支援

佐須地域

①環境に配慮した水田農業の展開と 特産品開発及び販路拡大による 集落の活性化

基盤整備された水田における低コスト省力化や、環境負荷軽減が期待できる技術導入支援、ツシマヤマネコと共生した特色ある米生産等の取組を推進します。

- 島外を視野に入れた米販売
- 農商工との連携による特産品開発
- グリーン・ツーリズムとの連携による都市との交流

佐須地域

①中山間地帯における農業法人を 中核とした水田農業の推進

農事組合法人を中心に、水稲・そばの集約化を進め、生産コストの低減による地域の所得向上、耕作放棄地の防止等地域の維持発展を図ります。

- 機械整備の推進
- 受託の広域化に伴う事業規模拡大
- 新規作目の導入による法人経営安定

計画の達成に向けて

農林業者の役割

- 消費者との交流等を通じて県民の農林業・農山村への理解を深める活動を積極的に実践するとともに、若者に魅力ある産業として、また、雇用の場として情報発信できる経営体として発展することが期待されています。
- 地域社会の形成に積極的に取り組み、集落機能を維持し、農山村が持つ多面的な機能を将来の世代に確実に継承していく役割も期待されています。
- 県は、このような意欲ある自立した取組に対し、積極的に支援していきます。

積極的な県民参加

- 県民一人ひとりが農林業・農山村を共通財産として将来に引き継いでいくという認識を持ち、積極的に応援・参加していくことが基本と考えています。
- 消費生活を通じた県産農林産物の活用、生産者や農山村と県民の交流による相互理解、農山村や山林の保全活動等への積極的な参加が期待されています。
- 県は、農林業・農山村に関する情報の提供を積極的に行うとともに、交流や対話の機会を設け、県民が参加しやすい環境づくりを進めていきます。

農林業団体等の役割

- 地域に根ざした組織として、消費者や関連産業等との連携を図りながら、担い手育成、産地形成、販路拡大、農山村地域の活性化などに中心的な役割を果たすことが求められています。
- 県は、本計画の目標達成に向け、農林業団体等と一体となって施策を推進していきます。

関連事業者の役割

- 本県農林産物の積極的な販売・利用促進や県内外への情報発信等を通じて、「ナガサキブランド」の確立や県産農林産物を活用した加工品の開発・販路開拓等が期待されています。
- 県は、農林業者及び団体と関連事業者とのマッチングを進め、共同した取組に対し、積極的に支援していきます。

市町の役割

- 市町は、地域住民と直接、接する身近な行政機関として、地域の特性やニーズに応じた住民本位の政策を、主体的に展開していくことが期待されています。
- 県は、市町としっかりとスクラムを組んで、本計画の方向に沿った市町の創意に基づく自主的な取組が効果的に展開されるよう支援していきます。

効果的な推進に向けて

施策の評価と見直し

- 総合的かつ横断的な取組が可能となるよう努めるとともに、計画的な推進を図るためにも、園芸や畜産など個別の施策計画を作成し、これに基づいた事業を積極的に展開していきます。
- 施策の進捗状況等について、毎年度検証・評価等を行い、評価結果やTPP等の農林業情勢の変化に基づき、必要に応じて事業の見直しを行います。
- 施策の評価については、具体的な目標指標を設定した定量的評価を実施し、県民にわかりやすい施策効果の説明に努めます。

推進体制

- 多方面からの意見を聞き施策に反映する機会として、第三者委員会を設置するとともに、県及び地域段階に、市町、農林業団体、商工団体、農林業者、消費者等で構成する推進会議を設置し、各関係機関・団体、県民一体となった計画推進に努めます。
- 県及び地域段階で各関係機関・団体で構成する地域就業支援センターや担い手育成総合支援協議会など各種協議会活動と連携して、施策の効率的・効果的に推進します。

国の制度の活用

- 本計画を効果的に推進するためには、国の支援制度を最大限活用することが不可欠です。
本県農林業・農山村の実情に応じた農林施策の推進や予算の確保について、国に対する働きかけに努めます。



農業所得 600 万円規模の経営モデル

営農類型	地域類型	経営規模	経営のポイント	労働力	経営全体(千円)		
					粗収益	経営費	農業所得
びわ 複合経営	本土	ハウスびわ …… 30a 「なつたより」 … 40a 露地びわ …… 40a 早生温州 …… 50a 中晩柑 …… 40a 計 …… 200a	・施設化 ・びわ中心 ・かんきつとの複合 ・雇用型	家族経営 2.5人 臨時雇用あり	22,092	15,664	6,428
かんきつ 専業経営	本土	極早生温州 …… 60a 早生温州 …… 140a させぼ温州 …… 70a 普通温州 …… 80a 中晩柑 …… 50a 計 …… 400a	・露地栽培 ・先導的農業者 ・機械化(SS導入)	家族経営 3人 臨時雇用あり	25,531	19,100	6,430
いちご 「ゆめのか」	平地、 中山間、 離島	20a (内訳) 株冷 …… 20a	・品種「ゆめのか」 ・株冷処理による早期出荷 ・雨よけ点滴育苗 ・炭酸ガス施用	家族経営2人 臨時雇用あり	14,208	7,662	6,545
アスパラガス	平地、 中山間、 離島	50a	・UVカットフィルム・防虫ネット・ フェロモントラップなど耕種的防 除対策により、環境保全型農業に 努める ・共同選果施設利用	家族経営2人 臨時雇用あり	15,760	10,301	5,459
トマト	平地、 中山間、 離島	50a	・接ぎ木セル苗購入による2次育苗 ・UVカットフィルム・防虫ネット使用 ・交配はマルハナバチ利用 ・2重カーテン・多段式サーモ・循環 扇等の省エネ対策を実施 ・共同選果施設利用	家族経営3人 臨時雇用あり	29,948	24,478	5,469
ミニトマト	平地、 中山間、 離島	40a	・接ぎ木セル苗購入による2次育苗 ・UVカットフィルム・防虫ネット使用 ・交配はマルハナバチ利用 ・2重カーテン・多段式サーモ・循環 扇等の省エネ対策を実施 ・個人選果	家族経営3人 臨時雇用あり	28,122	20,734	7,388
ばれいしょ	平地、 中山間	480a (内訳) トンネル …… 30a 早掘りマルチ … 250a 春作マルチ … 170a 秋作 …… 300a	・機械化体系で省力化を図る ・共同選果施設利用 (ただし、トンネル栽培は個人選果) ・「さんじゅう丸」一部導入による農 業費の削減	家族経営3人 臨時雇用あり	30,609	24,805	5,804
春はくさい+ だいこん+ にんじん	平地、 中山間	350a (内訳) 春はくさい …… 50a 冬にんじん … 150a 春にんじん …… 50a 秋冬だいこん … 50a 春だいこん … 100a	・春はくさい、春にんじん、 春だいこんはトンネル栽培 ・春はくさいは、購入苗利用 ・にんじんの収穫は一部委託作業	家族経営3人 臨時雇用あり	26,891	21,400	5,491

営農類型	地域類型	経営規模	経営のポイント	労働力	経営全体(千円)		
					粗収益	経営費	農業所得
ばれいしょ+レタス	平地、中山間、離島	620a (内訳) ばれいしょ春作マルチ…………… 80a レタス年内どり…………… 200a レタス年明けどり…………… 400a	・ばれいしょは機械化体系で省力化を図る ・レタスは半自動定植機を利用し、省力化を図る	家族経営3.5人 臨時雇用あり	30,763	25,012	5,750
輪ぎく	島原、県央、県北	輪ぎく…………… 60a	・省力機器を導入して周年安定出荷による経営	家族経営3人 常時雇用2人	36,741	29,544	7,196
カーネーション+ガーベラ	島原、県央、県北	カーネーション 40a ガーベラ…………… 20a	・カーネーション周年栽培にガーベラ周年栽培を組み合わせた経営	家族経営3人 常時雇用3人	35,040	28,249	6,790
トルコギキョウ+アスター	島原、県央、県北	トルコギキョウ 60a アスター…………… 10a	・トルコギキョウにアスターを組み合わせた周年出荷による経営	家族経営3人 常時雇用1人	27,380	19,551	7,829
茶専業	中山間	畑…………… 650a	・品種構成が早生3割、「やぶきた」6割、晩生1割で蒸し製玉緑茶を生産・販売 ・製茶機械が90K2ライン	家族経営 2.5人	28,628	22,565	6,063
茶協業	中山間	畑…………… 2,000a (うち200aが改植園)	・専業4戸が茶園と資本装備を持ち寄り共同化 ・蒸し製玉緑茶を生産・販売 ・地域の20haの番茶を受託 ・製茶機械が120K1.5ライン2系列	家族経営4人 常時雇用あり	101,630	77,132	24,499 (6,125/人)
葉たばこ	平坦地	畑…………… 250a	・第1黄色種「コーカー」を栽培 ・生産量の5割を共同乾燥施設に乾燥を委託	家族経営3人 常時雇用あり	13,283	6,896	6,387
肉用牛繁殖専業	全域	繁殖雌牛……………50頭	・超早期母子分離技術 ・一部は放牧利用	家族経営2人	29,000	22,197	6,803
肉用牛肥育専業	全域	肥育牛…………… 130頭	・長崎型新肥育技術の導入	家族経営2人	85,738	79,409	6,330
肉用牛一貫経営	全域	繁殖……………30頭 肥育……………70頭	・長崎型新肥育技術の導入 ・一部は放牧利用	家族経営2人	46,167	40,000	6,167
酪農	中山間	経産牛……………50頭 つなぎ牛舎	作業の外部化によりつなぎ飼いで規模拡大する家族経営 ・搾乳ユニット自動搬送装置の導入 ・酪農ヘルパー・コントラクターの活用 ・上記による労力削減(3割削減) ・粗飼料自給率80%	家族経営2人	42,800	36,800	6,000

営農類型	地域類型	経営規模	経営のポイント	労働力	経営全体(千円)		
					粗収益	経営費	農業所得
ブロイラー専業	平地	60,000羽	・平飼い ・自動給餌機利用 ・同一鶏舎一貫飼育方式	家族経営3人	165,800	157,500	8,300

農業所得 1,000 万円規模の経営モデル

営農類型	地域類型	経営規模	経営のポイント	労働力	経営全体(千円)		
					粗収益	経営費	農業所得
かんきつ大規模経営	本土	極早生温州…………… 60a 早生温州……………190a させぼ温州…………… 90a 普通温州……………100a 中晩柑…………… 60a 計……………500a	・露地栽培 ・高ブランド率 ・大規模経営 ・機械化(SS導入) ・雇成型	家族経営3人 臨時雇用あり	33,319	23,296	10,023
いちご「ゆめのか」	平地、中山間、離島	40a (内訳) 夜冷…………… 10a 株冷…………… 10a 普通…………… 10a 高設…………… 10a	・品種「ゆめのか」 ・夜冷、株冷処理による早期出荷 ・雨よけ点滴育苗 ・炭酸ガス施用	家族経営3.5人 臨時雇用あり	27,860	17,258	10,602
トマト	平地、中山間、離島	80a	・接ぎ木セル苗購入による2次育苗 ・UVカットフィルム・防虫ネット使用 ・交配はマルハナバチ利用 ・2重カーテン・多段式サーモ・循環扇等の省エネ対策を実施 ・共同選果施設利用 ・30a分で高糖度トマト(8%以上)の作付	家族経営3人 臨時雇用あり	52,533	41,905	10,628
ミニトマト	平地、中山間、離島	60a	・接ぎ木セル苗購入による2次育苗 ・UVカットフィルム・防虫ネット使用 ・交配はマルハナバチ利用 ・2重カーテン・多段式サーモ・循環扇等の省エネ対策を実施 ・個人選果	家族経営3人 臨時雇用あり	42,192	31,068	11,124
ブロッコリー	平地、中山間、離島	600a (内訳) 秋作……………200a 冬作……………250a 春作……………150a	・自家育苗、定植機使用 ・活着のため灌水使用 ・春作はべたがけマルチ栽培	家族経営3人 臨時雇用あり	22,737	13,470	9,267
輪ぎく	島原、県央、県北	輪ぎく……………100a	・1戸1法人経営 周年安定出荷による経営	家族経営3人 常時雇用7人	57,282	45,692	11,590
カーネーション+ガーベラ	島原、県央、県北	カーネーション 80a ガーベラ…………… 20a	・カーネーション周年出荷栽培+草花栽培による経営	家族経営4人 常時雇用6人	59,990	49,848	10,142

営農類型	地域類型	経営規模	経営のポイント	労働力	経営全体(千円)		
					粗収益	経営費	農業所得
トルコギキョウ+アスター	島原、 県央、 県北	トルコギキョウ 100a アスター …… 20a	・トルコギキョウ周年出荷栽培+ その他草花栽培による経営	家族経営3人 常時雇用3人	46,476	36,173	10,303
肉用牛 繁殖専業	全域	繁殖雌牛… 80頭	・超早期母子分離技術 ・一部は放牧利用	法人経営3人	46,400	35,515	10,885
肉用牛 肥育専業	全域	肥育牛… 210頭	・長崎型新肥育技術の導入	法人経営3人	138,500	128,276	10,225
肉用牛 一貫経営	全域	繁殖… 60頭 肥育… 130頭	・長崎型新肥育技術の導入 ・一部は放牧利用	法人経営3人	85,738	74,285	11,453
酪農	中山間	経産牛… 100頭 フリーストール牛舎	機械化・外部化を進める法人経営 ・搾乳ロボットの導入 ・酪農ヘルパー・コントラクターの活用 ・上記による労力削減(3.4割削減) ・粗飼料自給率60%	法人経営3人 うち雇用1人	82,870	71,250	11,620
養豚一貫	全域	母豚… 150頭	・母豚1頭当たり出荷頭数22.5頭 ・オールインオールアウトの実施	農家経営3人 うち雇用1人	114,075	99,687	14,388
養豚一貫	全域	母豚… 200頭	・母豚1頭当たり出荷頭数22.5頭 ・オールインオールアウトの実施	農家経営4人 うち雇用1人	152,100	132,917	19,184
養豚一貫	全域	母豚… 500頭	・母豚1頭当たり出荷頭数24.0頭 ・オールインオールアウトの実施 ・ベンチマーキングの導入	法人経営10人 うち雇用7人	405,600	350,544	55,056
採卵鶏専業	平地	60,000羽	・高床式、ゲージ飼育 ・光線管理による生産性向上 ・自動集卵装置による集卵 ・洗卵選別はGPセンター	家族経営5人 うち雇用2人	201,000	187,000	14,000
ブロイラー専業	平地	170,000羽	・平飼い ・自動給餌機利用 ・同一鶏舎一環飼育方式 ・ライブカメラ、LED照明 ・出荷作業委託 ・消毒ゲート設置	法人経営5人 うち雇用1人	307,000	291,600	15,400

集落営農の経営モデル

営農類型	地域類型	経営規模	経営のポイント	労働力	経営全体(千円)		
					粗収益	経営費	農業所得
集落営農組織 (法人)	平場地域 水田	水稻… 18ha 新規需要米… 6ha 麦… 28ha 大豆… 6ha 加工野菜… 2ha (たまねぎ)	土地利用型作物に園芸品目を取り 入れた営農 ・基盤整備圃場 ・主食米:高温耐性品種 ・飼料用米:専用品種 ・麦:地場用仕向け ・加工野菜:たまねぎ等	2.5人	68,256	43,004	25,252
集落営農組織	中山間地域 水田	水稻… 10ha 新規需要・加工米 … 9.5ha 施設野菜… 0.5ha (アスパラガス)	土地利用型作物に園芸品目を取り 入れた営農 ・基盤整備圃場 ・主食米:高温耐性品種 ・加工米:地場用仕向け ・施設野菜:アスパラガス等	1.5人	40,664	28,612	12,052

しいたけ(乾・生)の経営モデル

営農類型	地域類型	経営規模	経営のポイント	労働力	経営全体(千円)		
					粗収益	経営費	農業所得
乾しいたけ	離島	用役ほだ木本数 30,000本 (ほだ場面積0.33ha)	・ほだ場の環境管理(温度・湿度等) ・適期の収穫 ・規格に基づく選別	家族経営2人	5,050	2,193	2,857
生しいたけ	離島	用役ほだ木本数 300,000本 (ほだ場面積4.20ha)	・大規模施設での栽培 ・栽培、販売加工、営業担当の 分業	法人経営40人	195,000	181,670	13,330

中山間地域及び林間地等における少量多品目の経営モデル

経営試算（10aあたり）

（単位：千円）

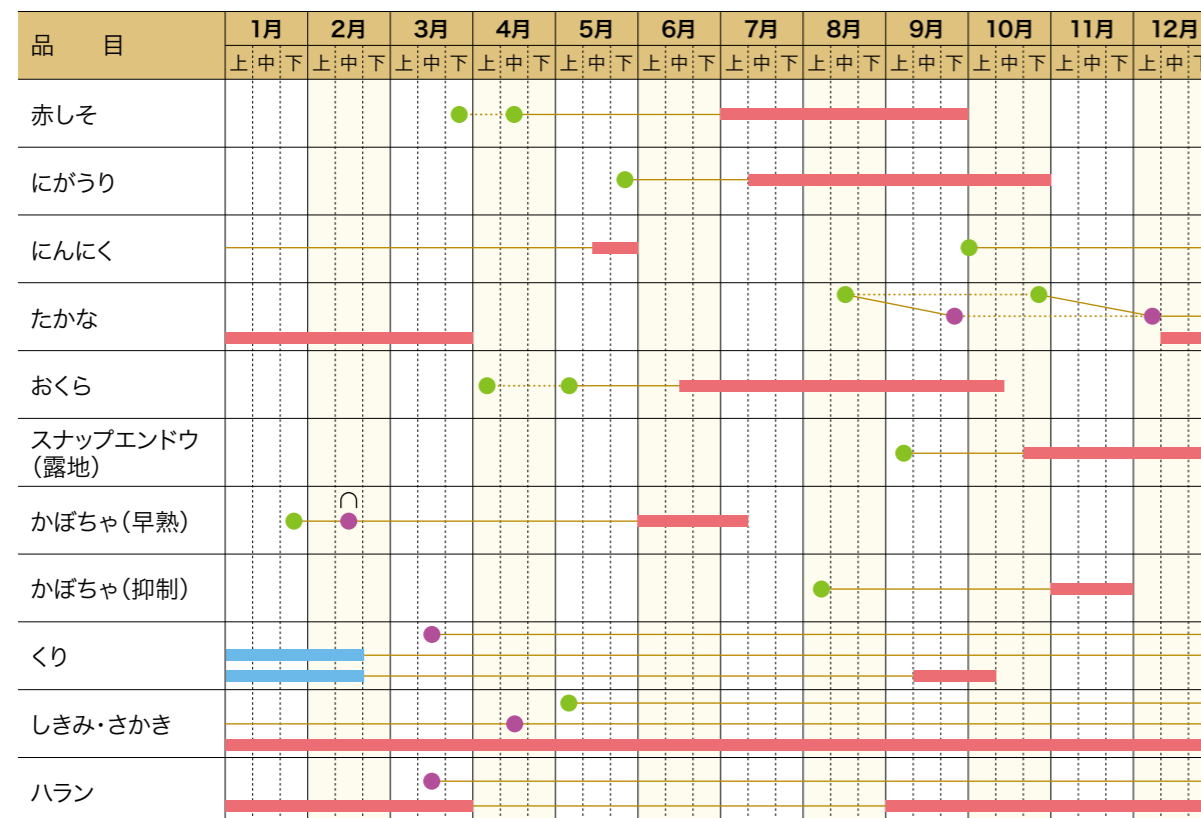
品目	農業所得	粗収益	経営費		備考	
			生産費等	販売経費		
赤しそ	87	240	153	153	0	契約栽培
にがうり	689	1,650	961	581	380	
にんにく	133	406	273	204	69	
たかな	28	147	119	119	0	契約栽培
おくら	357	848	491	183	308	
スナップエンドウ（露地）	330	810	480	294	186	
かぼちゃ（早熟）	125	533	408	271	137	
かぼちゃ（抑制）	31	283	252	170	82	
くり	46	135	89	55	34	
しきみ	170	243	73	28	45	
さかき	83	135	52	28	24	
ハラン	74	90	16	3	13	

※生産費等：種苗費、肥料費、農薬費、諸材料費、減価償却費、支払利息など

販売経費：選果出荷経費、運賃、手数料など

※くり、しきみ、さかき、ハランは定植後3年目以降から収穫開始

栽培こよみ



（凡例） ●…播種 ○…トンネル被覆 ●…定植 ■…収穫 ■…せん定



長崎県

長崎県農林部

〒850-8570 長崎市江戸町2番13号

Tel. (代) 095-824-1111 (直) 095-895-2913

<http://www.pref.nagasaki.jp/section/nosei/>

